

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 18 号:2011 年 8 月－10 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2011 年 1 月～9 月期のウズベキスタンの GDP 成長率は 8.2%

内訳は、鉱工業生産高の成長率が 7%、農業が 6.8%であった。消費財生産の伸び率は 11.4%、小売り売上高が 16.2%、サービス（居住者向け有料サービス）が 14.2%であった。

GDP のうち中小企業が占める割合は 2010 年の 48.5%に対して今年 は 50.5%であった。中小企業の鉱工業生産高は 26.5%、中小企業の製品輸出高は 1.6 倍、それぞれ増加した。

国家予算の執行状況は歳入が歳出を上回り、その黒字幅は GDP の 0.4%であった。インフレ率は予測レベルを超えなかった。

2011 年 1 月から 9 月までの 9 ヶ月間、内国投資は 23 億ドルを上回った。今年はいくまで食品工業、軽工業、化学工業、機械製作工業、建設資材製造工業その他のセクターで 828 の生産施設が新たに稼働を開始し、その投資額は 2010 年比 8%増加した

2011 年の 9 ヶ月間のウズベキスタンの貿易高は 21.6%増加した（2010 年 1 月～9 月期は+0.3%）。輸出は 21.4%（同+8.3%）、輸入は 21.8%（同-9.9%）それぞれ増加した。貿易収支は 38 億ドルの黒字となった。

2011 年の 8 ヶ月間に市中銀行は、中小企業および民間企業向けに総額 2 兆 8000 億スムに及ぶ信用を供与した。これは 2010 年同期比 1.5 倍である。無担保の小口融資は前年同期比 1.4 倍に増加し、5,256 億スムとなった。

IMF がウズベキスタンの 2011 年の予想インフレ率を 13.1%に上方修正

IMF は前回の報告書「世界経済発展の見通し」の中で、ウズベキスタンの 2012 年のインフレ率が 11.8%になると予想していた。これと同時に IMF の専門家たちは 2011 年のウズベキスタンの GDP 予想成長率をこれまでの 7%から 7.1%に上方修正した。2012 年については 7%程度に据え置いた。

二国間関係

中国側投資家と共同でウズベキスタンのジザク州にハイテクパーク創設へ

同プロジェクトは、2011年4月19日から20日までウズベキスタンのカリモフ大統領が中国を公式訪問する中で合意に達し締結された諸取り決めの実行のための特別「行動計画」の一環として、両国政府が現在、具体的な立案を進めているところである。そのほかウズベキスタンと中国側パートナー各組織は、共同でいくつかの工業団地、農業団地、ハイテクセンターをウズベキスタン領内に創設すべく協議を重ねている。今回の公式訪問では、全体として25を上回る国家間、政府間、省庁間文書が締結されている。これらの締結された諸取り決めに従って総額が50億ドルを上回る一連の投資プロジェクトが実施に向けて検討されている。2011年上半期の中国とウズベキスタンの2国間貿易高は、9億3600万ドルを上回った。

ウズベキスタンと中国は2015年までに両国間の貿易高を倍増させる計画

これについて、中国の全国人民代表大会常設委員会のウ・バンゴ委員長がウズベキスタン国会上院で行った演説の中で表明した。2010年、両国の貿易高は24億8,000万ドル、中国のウズベキスタン経済向け内国投資は16億5,000万ドルになった。両国は2015年までに2国間の貿易高を50億ドルに引き上げる計画である。

多国籍関係

アジア開発銀行（ADB）が農村地域の住宅建設促進のためにウズベキスタンに5億ドルの借款を供与

この事業の主たる目的は、住宅建設を促進するために支援を行い、農村住民が不動産を抵当にした融資を受けやすくすることにある。ADBは、ウズベキスタン政府の2011～2015年農村地域振興5カ年投資プログラム向けにマルチトランシュ型融資^{*1}を供与することにしており、その1回目のトランシュ（融資）は2億ドルになる見通しである。この投資プログラムは、総額30億ドルで、ウズベキスタン全国の農村地域における4万戸を上回る住宅建設をファイナンスすることになる。

*1 マルチトランシュ型融資：中長期のプロジェクトを支援する融資であり、融資が分割で行われる。対象国はトランシュ（分割融資）の各回ごとにトランシュ条件を満たさなければ次のトランシュを受け取ることができない。トランシュ条件は毎回変えることができる。

世界銀行とウズベキスタンがタリマルジャン (Talimardjan) 送電プロジェクト向け総額 1 億 1000 万ドルの融資協定に調印

世界銀行の資金を原資に、タリマルジャン火力発電所で 500/220kW 変電所を新たに建設し、同発電所からソグジアナ (Sogdiana) 変電所まで総延長 218km の 500kW 高圧単一回線送電線を敷設し、ソグジアナ変電所を増強する。このプロジェクトの目的は、ウズベキスタンのサマルカンド、カシュカダリヤ、ナヴァーイーおよびブハラ の 4 州の家庭向け及び事業家向けの電力供給の安定性を高めることである。この目的は、電力システムを増強して送電ロスを減らすことによって達成される。このプロジェクトはまた、国営電力会社「ウズベクエネルゴ」の技術的ポテンシャルと信頼度を高める上での、また、再生可能エネルギー開発の潜在力がどれほどあるのかを評価する上での技術支援という側面も持っている点で意義深いものがある。2011 年 8 月現在、世界銀行のウズベキスタンに対する債権の総額は、実施中の 10 プロジェクト向け約 6 千 3,000 万ドルである。

投資政策

「2011～2013 年製品、部品および材料生産現地化率引き上げプログラム」が承認された

プログラムに参加する企業は一連の特典を受けることができる。このような特典として、輸入される製造技術設備およびそのスペアパーツならびに現地化される製品を生産するために製造工程で使用されるがウズベキスタンでは生産していない輸入部品にかかる関税その他の通関時の納付金の免除が挙げられる。そのほか、現地化プロジェクトの枠内で生産された製品に関しては利潤税と（簡易課税制度を利用する事業主体向けの）統一支払税の免除が、現地化される製品の生産のために使用される生産用固定資産に関しては資産税の免除がそれぞれ延長された。

「官僚主義的障壁の除去と企業活動の自由度のいっそうの引き上げのための措置に関する」ウズベキスタン大統領決定

この決定に従って 2011 年 9 月 1 日から、天然資源利用、製造業、対外経済活動、商業、外食産業をはじめとする企業活動の分野における各種許可証の発行を規定する一連の文書が効力を失っている。また、政府行政機関・公共企業体および地方行政機関・地方公共企業体が法律で規定されていない許可制度や許可手続きを新たに導入することが禁止された。

この大統領決定に基づき、中小の事業体および民間の事業体については、生産施設の建設や改修を行うために必要となる許可証をはじめとして、法律で定められた各種許可証の交付はワン・ストップ・サービスの原則で行われる。ワン・ストップ・サー

ビスを提供する権限を与えられた公的機関にはこのような交付のために他省庁と必要な調整を行う機能が委ねられる。大統領決定で触れられているように、各種許可証の交付期間は、内閣が指定する特定分野の事業活動を除き、事業者が許可証交付申請を提出した日から 30 労働日以内となっている。

大統領決定では、輸出にかかわる各種の手続きをワン・ストップの原則で行う仕組みを 2011 年 10 月 1 日から段階的かつ試験的に導入するとの決定が下されている。これによると通関手続き、申告、認証、検疫および貨物の通関手続きの過程に参加するその他の機関が行う活動が同時並行的に行われることになる。

また、この大統領決定によって、貨物を輸出する際に納付される通関手数料の新しい料率が承認された。新料率は現行の 2 分の 1 以下となる。「輸出」通関条件で貨物と輸送手段に課される手数料の料率は、関税課税価格の 0.1%、しかし最低賃金^{*2}の 50% 以上と定められた。「保税加工」通関条件でも同じ料率が適用される。

エネルギーセクター

ウズベキスタン地質鉱物資源国家委員会とナヴォイ鉱山精錬コンビナートがいくつかの中国企業と共同でウズベキスタンの有望な区域で砂岩型ウランの探鉱作業を行うことを詳細に検討中

このような検討を行うことについては、2011 年 4 月 19 日から 20 日までウズベキスタンのカリモフ大統領が中国を公式訪問する中で合意に達し締結された諸取り決めの実行のための特別「行動計画」が定めている。

南アフリカの Sasol、マレーシアの Petronas およびウズベキスタンの国営持株会社ウズベクネフチェガスがウズベキスタン対外経済関係・投資・貿易省と投資協定を締結

この投資協定は、メタンから液体燃料（GTL）を生産する工場の建設プロジェクトの立案と実施にかかわるものである。このプロジェクトは輸入原油への依存度を下げ、天然ガスから生産される製品を多様化する点でウズベキスタンに利益をもたらす。

協定によれば、プロジェクトが円滑に実行され、GTL 工場がスムーズに操業できるように、投資家とプロジェクトそのものは投資保護および税務上の特典を受けることになっている。今回の協定の締結は今後ウズベキスタンで GTL 事業を展開していく上で画期的な意義を有する。出資金の内訳は韓国社とウズベクネフチェガスがそれぞれ 44.5%、Petronas が 11%.となっている。

^{*2} 最低賃金：6 万 2920 スム／月（2011 年 11 月 4 日付ウズベキスタン大統領令）

ウズベキスタン大統領が、アラル海水域ウズベキスタン区域地質探鉱 PS 協定の枠内での今後の作業プログラムを承認

このプログラムによれば、ウズベクネフチェガス、ロシアのルクオイル、韓国の KNOC および中国の CNPC で構成される投資家コンソーシアムは 3 本の試掘・評価井を掘削することになる。事業規模は少なくとも 1,700 万ドルになる。この PS 協定は、2007 年 1 月に発効し、期間は 40 年、事業会社は Aral Sea Operating Company (ASOC) である。

「アラル」プロジェクトに基づいて、これまで陸上、海域および移行帯で総延長約 3000km の 2D 地震探査が行われ、2 本の試掘・探鉱井が掘削された。投資額は 1 億 1000 万ドルを上回る。この結果東アラル天然ガス鉱床が発見され、その推定埋蔵量は暫定値ながら 110 億 m³ に達する。そのほか 6 つの有望な地質構造が明らかになり、そのうちの 4 つについては検定証 (パスポート)^{*3} が発行され、さらに深く掘削するため (深層掘削) の準備が進められている。

ウズベキスタン・米国合弁 Uz-Texaco と Prista Oil Group 社 (ブルガリア) がウズベキスタンで合成エンジンオイルの生産を開始すると表明

合弁 Uz-Texaco の公式発表によると、エンジンオイルは Prista という商標で生産される。現在すでに、合成エンジンオイル Prista Ultra 5W40 の最初のロット、数量にして 1 万 t が生産されている。なお、新しい合成エンジンオイルは Texaco の従来からのブランド製品、ブランド名 Havoline、Ursa、Gearrtex、Rando と並行して生産される。この事業は、地元ウズベキスタンのパートナー、国営持株会社ウズベクネフチェガスの協力を得て実施される。計画によると、2012 年には合成、半合成、高品質の鉱物性エンジンオイル 500 万リットル余りを生産することになっている。現在、合弁 Uz-Texaco は認定を受けたエンジンオイル、作動油、ギアオイルその他のオイル約 30 種類生産している。Uz-Texaco の製品のうち約 70% が中央アジア、カザフスタン、東欧およびその他の CIS 域外地域に輸出されている。

国営株式会社ウズベクエネルギー は、2016 年までに総額が 52 億 7200 万ドルに及ぶ 44 の投資プログラムを実施することを視野に入れている

この期間、現在稼働している 12 の水力発電所を近代化して設備能力を 55.8MW 増強し、容量が 750kW の風力発電所を試験的にチャルバク (Charvak) 貯水池地区に建設する計画である。

^{*3} 検定証 (パスポート) : 有用地下資源の種類と構成、分布、採掘可能量、埋蔵量などのデータを含む文書。地下資源を利用・採掘するにはこの文書を保有することが必須条件となる。

ウズベキスタンの 2011 年 1 月～9 月の石油・ガスコンデンセート生産量は、前年同期比 7.1%減少し、270 万 t となった

石油の生産量は 5.2%減少して 144 万 3,000t になり、ガスコンデンセートの生産量は 129 万 9,000t まで減少した（マイナス 9.2%）。石油製品の生産量は次の通り：ガソリン-100 万 90,00t（マイナス 2.6%）、灯油-26 万 300t（マイナス 4.5%）、ディーゼル燃料 -84 万 5,500t（マイナス 1.1%）、石油アスファルト -12 万 7,800t（マイナス 14.7%）。2011 年 1 月～9 月の天然ガスの生産量は 4.3%減少して 472 億 6,000 万 m³になった。液化ガスの生産量は 19 万 1,800t に減少した（マイナス 4.4%）。国営持株会社ウズベクネフチェガスは、天然ガスを 700 億 m³/年、液体炭化水素を 800 万 t/年、安定的に生産できる設備能力を保有している。

ウズベキスタン・韓国合弁 UzKorGasChemical が、ウスチュルト・ガス化学プラントの建設向けに 2011 年末までに 35 億ドルの資金を誘致する計画

合弁 UzKorGasChemical、アジア開発銀行（ADB）、KEXIM および KSURE はこのほど、「スルギル（Surgil）ガス田を基盤としたウスチュルト・ガス化学プラントの建設および同ガス田の施設整備」プロジェクトにかかわる資金調達のもっとも重要な条件について合意に達した。それによると、このプロジェクトの費用は 41 億ドルを上回るが、資金は外国の金融機関からの融資によって調達されるほか、国営持株会社ウズベクネフチェガスが自己資金を原資に 2 億ドルを負担し、ウズベキスタン復興開発基金が 3 億ドルの融資を供与する。

インドの ONDzhisi Videsh Ltd. が近く、スレドニエ-シルダリヤ投資鉱区で地質調査および探鉱作業に着手

これについては国営持株会社ウズベクネフチェガスと ONDzhisi Videsh Ltd. が交わした覚書の中で取り決められている。覚書は、長期間操業している小規模生産井の石油産出量の引き上げの分野で両者が協力するとしている。2011 年～2015 年に実施するとされている各種事業の総額は概算見積もりで約 5,000 万ドルとなる。

国営持株会社ウズベクネフチェガスが 2020 年までにガスの輸出潜在力を 272 億 m³まで引き上げる意向

今後炭化水素資源の埋蔵量を安定的に増やしていくために、「2020 年までの石油ガス部門発展コンセプト」が策定された。コンセプトは、2020 年の炭化水素資源の埋蔵量を 2010 年と比較してガスについては 1.25 倍、石油については 1.65 倍、コンデンセートについては 1.33 倍にそれぞれ引き上げることを見込んでいる。コンセプトはこれと同時に、試掘、探査ボーリング、層序試錐掘削の年間作業量を 2.5 倍に引き上げ、総

延長 30 万 m を達成するとしている。また、先端技術である 3D 地震探査の作業量を大幅に増やし、2010 年の 1,639km² から 2020 年には 4,000km² に引き上げる計画である。

自動車・輸送セクター

GM Uzbekistan は、2011 年の最初の 9 カ月間のロシアでの自動車販売数量を前年比で 31%増やし、7 万 1,623 台とした。

このうち Nexia の販売数量は 4 万 1,904 台 (+31%)、小型車 Matiz は 2 万 9,719 台 (+31%) であった。閉鎖型株式会社 GM Uzbekistan は 2011 年 1 月～9 月、ロシアにおける自動車販売数量で第 10 位を占めた。モデル別の販売数量では Nexia が第 9 位、Matiz が第 16 位に入った。

ADB は、自動車幹線道路（国道）230km の改修のために 5 億ドルのマルチランシュ型融資をウズベキスタンに供与した

融資は 8 月 23 日の ADB 理事会で承認された。この事業は、中央アジア地域経済協力プログラム（CARES）「地域自動車道路の整備・フェーズ 2」に含まれる。最初のランシュ 1 億 3,000 万ドルは、フェルガナ渓谷を横断する A-373 号自動車道路の 74km 区間の復旧に振り向けられる。ADB は既存の道路の交通安全と道路管理の改善の面でも支援する。

CARES の第 2 号輸送回廊は外カフカース地方および地中海諸国を東アジアと結んでいる。この道路に対する融資の主眼は、アジアと欧州の交差点という中央アジア地域の戦略的位置を生かすべくこの地域の諸国を支援することにある。このようにして自動車道路が復旧されれば、ウズベキスタンは今後 CARES プログラムが展開されていく中できわめて重要な役割を手に入れることになる。

タシケント州ザンギアチンスキー（Zangiatskiy）地区にある General Motors Powertrain Uzbekistan 工場がエンジンの試作品の生産を開始

必要な各種の試験と認証が完了した後、今年 11 月に量産が始まることになっている。フル生産に入るのは 2013 年となる。このようにして General Motors Powertrain Uzbekistan は新世代エンジン BDONC、排気量 1,200cc（82 馬力）および 1,500cc（115 馬力）を生産することになる。

計画では、同社のウズベキスタンにおける自動車エンジンの生産数量は次のように推移する：2011 年—約 2,000 台、2012 年—12 万 5,000 台、2013 年—14 万 2,000 台、2014 年 20 万 5,000 台、2015 年—28 万 1,400 台。投資総額は 5 億 2,100 万ドルを上回る。

アンジジャンで GM Uzbekistan 工場の新型車向けに 2 つの自動車部品生産合弁が設立された

1 つ目の合弁は、ウズアフトサノアト (Uzavtosanoat) 株式会社と Austem Co., Ltd. によって設立された O'zauto-austem であり、この合弁は GM Uzbekistan の新型車向けにホイール・ディスクとシャーシ・アセンブリを生産することになる。もうひとつの合弁は、有限会社 Avtosanoat invest、ウズアフトサノアトおよび Erae cs limited 社によって設立された O'zerae climate control であり、ラジエーター、エアコンシステム、換気装置および暖房装置を生産することになる。

中国の CITIC が国営株式会社ウズキミヨサノアト (Uzkimyo sanoat) とアングレン (Angren、タシケント州) におけるタイヤ生産工場建設契約を締結

工場の設備能力は、自動車タイヤ 150 万本/年、農業機械用タイヤ 20 万本/年および収穫機械用コンベヤーベルト延べ 10 万 m/年となる予定である。締結された契約では、この工場を建設するための設備の設計とターン・キー条件による納入を見込んでいる。プロジェクトの実施期間は 4 年。

このプロジェクトの費用 1 億 5,500 万ドルは、中国の輸出入銀行の融資 6,500 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金の融資 6,000 万ドルおよびウズキミヨサノアトの自己資金 3000 万ドルで賄われる。新工場はとりわけ合弁 GM Uzbekistan と有限会社「サマルカンド自動車工場 (Samauto) の需要を満たすために建設される。

General Motors と株式会社ウズアフトプロムが 2012 年に乗用車用トランスミッション生産合弁企業を建設することを計画

このプロジェクトの実施については、両社が暫定的な合意に達し、現在いくつかの技術的問題と資金調達の方法が検討されている。プロジェクトの費用は 3 億 1,000 万ドルと見積もられている。合弁の設備能力は、トランスミッションその他の乗用車向けエンジン・伝動機構組立て用モジュール 25 万台/年となる見通しである。プロジェクト実施期間は 4 年となる見込み。この新しい合弁は、設立文書が調印されればウズベキスタンで GM が参加する 3 つ目の合弁になる。

その他のセクター

ウズベキスタン政府は 2015 年までに繊維部門に 17 億ドルの資金を誘致する意向

外国投資は 55 の投資プロジェクトを実施するために誘致される。2011 年末までに繊維部門で 28 の工場が新たに操業を開始すると予想されている。これらのプロジェクトの今年の投資総額は約 1 億 5,000 万ドルになる見通し。

ウズベキスタンにおける繊維部門の企業の現在の総設備能力は、紡糸 37 万 3000 トン、綿布 2 億 8,200 万 m²、ニット生地 8 万 1,800t、ニット製品 1 億 6,800 万点、靴下類 7,130 万足である。ウズベキスタンは綿花（繰綿）の生産で世界の第 6 位、輸出で第 3 位を占めている。ウズベキスタンでは毎年、約 350 万 t の原綿と 100～120 万 t の綿花が生産されている。